

1. 授業科目と単位：

心理評価論 (○)講義 ()演習 ()実習 2単位

2. 履修対象者：

(○)D1, (○)D2, (○)D3: (○)文化科学研究科, (○)総研大の全研究科, その他
()

3. 授業担当教員：高橋秀明

担当教員との連絡 (e-mail、電話、FAX、研究室)：

質問はe-mail かe-mail で調整した時間の面談を歓迎。

(hide@nime.ac.jp、電話 043-298-3265、FAX 043-298-3476、メディア教育開発センター研究棟5F503室)

4. 授業実施期日時間：

2007年10月4日-2008年2月14日毎木曜日 10:30-12:30

5. 授業実施場所：

メディア教育開発センター研究棟8F総研大講義室

6. 履修条件、受講方法

申請にあたって、事前に担当教員に相談すること。

7. 授業内容の概要：

心理評価論とは、各種メディアが人間の心理過程及び行動に及ぼす影響についての心理学的な評価に関する理論および方法論のことである。その内容は、心理学研究法を基礎として、メディアが人間に及ぼす影響を評価するという応用的な側面を扱っている。代表的な研究法である、観察法、実験法、質問紙法および質的研究法について、事例を交えつつ解説する。学生には、学生自身の研究において得られたデータを3回発表してもらい討論することで、研究対象に適した妥当性・信頼性のある心理評価の方法について理解することを求めたい。

8. 授業の達成目標：

1. 心理評価論は、心理学研究法を基礎としていることを理解する。
2. 心理評価論は、研究対象であるメディア毎に適した妥当性・信頼性のある評価手法があることを理解することが必要である。
3. 上記2項の理解を深めるために、学生によるデータの発表および討論を必須としている。すなわち、学生は研究データを発表し討論する能力を養成する必要がある。

9. 授業計画：

	日程	内容
第 1 回	10月 4日	ガイダンス
第 2 回	10月 11日	心理学研究法概論 1
第 3 回	10月 18日	心理学研究法概論 2
第 4 回	10月 25日	研究計画・実験調査計画 研究の倫理

	11月	1日	(予備日)
第5回	11月	8日	学生によるデータ発表と討論1
第6回	11月	15日	観察法1
第7回	11月	22日	観察法2
第8回	11月	29日	質的研究法1
第9回	12月	6日	質的研究法2
第10回	12月	13日	学生によるデータ発表と討論2
	12月	20日	(予備日)
第11回	1月	10日	実験法1
第12回	1月	17日	実験法2
第13回	1月	24日	質問紙法1
第14回	1月	31日	質問紙法2
第15回	2月	14日	学生によるデータ発表と討論3

10. 使用参考書、参考文献：

講義で使用する資料は、その都度配布する。

参考文献は以下の通り。

北大路書房 心理学マニュアルシリーズ 観察法、質問紙法、面接法、要因配置法など

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦 2003 心理学研究法 放送大学教育振興会

田中敏 2006 実践心理データ解析 問題の発想・データ処理・論文の作成 新版 新曜社

古澤頼雄・斉藤こずゑ・都築学（編） 2000 心理学・倫理ガイドブック ーリサーチと臨床 有斐閣

Publication Manual of the American Psychological Association

11. 単位取得要件と成績評価基準：

達成目標3を重視する。すなわち、学生自身の研究データの発表および討論の内容から、心理評価論の要点を理解していると判定された学生に対して単位を認定する。成績は可否で示される。

12. その他のコメント

特になし。